

■川田芳子 俳優。日本映画界の草分け女優の一人となって、蒲田映画の初期黄金時代を築いた。

かわだよしこ

日清戦争終 1895= 新潟市の花街古町通九番町で、日本画家から新派の俳優になった曾我忠蔵の次女に生まれる。母は南画家の川田小堤。

市山七千世の養女となって踊りを習う。

日露戦争始 1904= 9歳 :

日露戦争終 1905=10歳 :

満鉄発足 1906=11歳 : 新潟市の大畑高等小学校を卒業、一家で上京し、日本橋浜町の藤間勘翁に師事、

歌舞、三弦を修め、寿福の名で新橋芸者となり、美人七人組の一人といわれる。

明治天皇没 1912=17歳 :

大正政変 1913=18歳 :

第一次大戦始 1914=19歳 : 松竹社長大谷竹次郎にスカウトされ、川上貞奴に養女分として預けられ、女優の道に入る。本郷座で伊庭孝の「処女」に使いの少年の役で出演。貞奴一座の座員として、帝劇「八犬伝墨田の高楼」に女田楽朝露の役で新派女優としてスタート。

以後、新派の舞台を続けた。

大暴落 1920=25歳 : *松竹キネマ合名会社に入社。松竹キネマ第1回作品「島の女」に主演。蒲田のスター第一号になり、以後、

原敬首相暗殺 1921=26歳 : 「断崖」「生さぬ仲」。

水平社結成 1922=27歳 : 「金色夜叉」「海の極みまで」「白鳥の死」

関東大震災 1923=28歳 : 「寛一と満枝」。

護憲三派圧勝 1924=29歳 : 「女殺し油地獄」。

治安維持法 1925=30歳 : 「女難」「小幡小平次」。

日本時代始 1926=31歳 : 「修羅八荒」「花井お梅」。

金融恐慌 1927=32歳 : 「魔道」。

共産党事件 1928=33歳 : 「不滅の愛」と、*第一線の女優として活躍し、日本映画界の草分けの一人として、初期黄金時代を築く。

世界恐慌 1929=34歳 : 「多情仏心」。野村芳亭監督「母」に主演して、万人の涙を誘い、

満州事変 1931=36歳 :

円熟してからの一連の母物映画によって、母親役者の第一人者と呼ばれたが、

芥川直木賞始 1935=40歳 : *人気絶頂のなか、大幹部川田芳子送別映画「母の愛」に主演して、蒲田映画から引退。

日中戦争始 1937=42歳 :

以後、母と二人でひっそりと暮らし、

大政翼賛会 1940=45歳 :

日米開戦 1941=46歳 :

敗戦 1945=50歳 :

三大事件 1949=54歳 :

独立回復 1951=56歳 :

インスタラーメン 1958=63歳 :

安保闘争 1960=65歳 :

晩年、養女にも死なれ、孤独な生活の中で、

美濃部都知事 1967=72歳 :

大阪万博 1970=75歳 : 草加市のアパートで、没した。

「日本の女性」、インターネット、